(1) 多職種連携による地域住民の健康支援活動への期待

就実大学薬学部　准教授　加地　弘明

現在，わが国では健康寿命の延伸や生活習慣病の発症・重症化予防が推進されており，医療を受ける側と提供する側の双方において，健康増進に対する意識変容が求められています．このような社会的背景をふまえ，薬局には軽症患者や未病者にとってのファーストアクセスの場として機能することが期待されており，地域住民に対し，薬局が健康支援の拠点であることを広く周知していく必要があります．しかし，薬局単独での健康支援活動には人的・時間的制約など様々な課題があり，継続的な実施が困難である場合も少なくありません．

そこで我々は，大学が地域における健康支援活動を企画し，行政を介して地域の薬局，クリニック，地域住民などへ参加を呼びかけることで，地域住民への健康支援のみならず，医療提供施設従業員に対する生涯学習支援，さらには薬学部学生に対する地域医療教育にも繋がると考えました．すなわち，本取り組みは，多様な関係者が相互に利益を得られる活動となりうると言えます．特に，医療資源の地域偏在が課題となっている中山間地域等においては，地域内での連携体制を構築しやすく，地域全体を巻き込んだ健康支援活動へ展開することで，地域住民の健康意識向上への貢献が期待されます．

本講演では，大学，行政，地域の薬局・クリニックが協働して実施した，地域住民に対する健康支援および薬の適正使用の推進に関する実践事例を紹介するとともに，その利点や課題，活動による波及効果について報告します．本活動を契機として，今後は，医療介護職とのさらなる連携を通じて，地域における健康維持増進活動や介護予防活動へと発展していくことが期待されます．